

会 告

学会・CPD 入会キャンペーン実施中	95
社団法人農業土木学会第 39 回通常総会の報告	95
平成 18 年度名誉会員の推挙	96
第 20 期理事役職者の選任および会務分担について	96
土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の改定について.....	97
Historical Heritage II: People Who Promoted Land and Water Resources Development in Japan の刊行について	98
平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について (再)	98
平成 19 年度日本農学賞候補の推薦について	98
第 30 回水の週間「ウォーターフェア 06 東京」農業用水の展示出展について (再)	99
平成 18 年度農学系 JABEE 研修会への参加のお願い (第 2 報)	99
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	99
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について	100
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の 配布について	100
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局 (投稿先) の韓国移転のお知らせ	101
農業土木学会誌への投稿お待ちしております!	102
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成 19 年夏季用の表紙写真の募集.....	102
新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集	103
国際水田・水環境工学会 2006 年 (第 4 回) 国際研究集会の開催について 	104
第 5 回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議 	106
第 55 回北海道支部研究発表会の開催について (第 1 報) 	106
平成 18 年度東北支部総会・第 50 回研究発表会並びに第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会について (第 1 報) 	107
.....	107
第 63 回京都支部研究発表会の開催について (第 2 報) 	107
第 61 回中国四国支部講演会の開催について (第 2 報) 	108
第 35 回中国四国支部研修会・第 30 回地方講習会の開催について (第 1 報) 	110
平成 18 年度九州支部講演会 (第 87 回)・シンポジウム開催について (第 1 報) 	110
第 45 回畑地かんがい研究集会開催のお知らせ 	111
平成 18 年度資源循環研究部会研究発表会の開催 	112
平成 18 年度農村計画研修会 (第 28 回現地研修集会) について (再) 	113
第 50 回粘土科学討論会 	114
学会記事	115

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

第 74 巻 8 号予定

展望：梅田 安治

小特集：湿地としての農地管理

サロベツ泥炭地の農地と湿原の再生：中瀬 洋志他

水田窒素除去機能の定量化への試み：田淵 俊雄

伊豆沼・内沼の環境保全と環境創造型農業の取組み：三塚 牧夫他

生物・生態系保全を目的とした水田冬期湛水の展開と可能性：栗田 英治他

冬期湛水・不耕起栽培の技術の系譜と今後への展望：牧山 正男他

技術リポート

北海道支部：泥炭地産米の食味向上客土の実現に向けた北海道の取組み：水間 啓慈他

東北支部：王城寺原演習場周辺障害防止対策事業における農業用水対策について：庄子 常松他

関東支部：大里用水にみられる外部経済の貨幣評価について：島田 敏夫

京都支部：法面崩壊兆候における対応・対策の事例報告：伊藤 豊他

中国四国支部：森谷トンネルの坑口補助工法について：深川 正二

九州支部：環境保全型水路の紹介について：加島 孝一他

講座：水士文化への誘い (その 6) 水士文化の見方 コトを見よう : 小川 直之

小講座：高橋 英紀

私のビジョン：地域環境保全のための農業地管理：渡辺 一哉

農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 8 月 8～11 日	大会運営委員会	平成 18 年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73巻12号 74巻1号3号
平成 18 年 8 月 10 日	農業農村情報研究部会	企画セッション 	農業イノベーションと農業農村情報研究	宇都宮大学	
平成 18 年 8 月 10 日	応用水理研究部会	企画セッション 	農業土木分野における応用水理学研究の課題	宇都宮大学	
平成 18 年 8 月 9 日	水文・水環境研究部会	企画セッション 	水文・水環境研究と大気との接点	宇都宮大学	
平成 18 年 8 月 9 日	水土文化研究部会	企画セッション 	様々な水土の知	宇都宮大学	
平成 18 年 8 月 9 日	材料施工研究部会	企画セッション 	「材料と施工」に関する最新の話 題 農業土木の美務と研究における	宇都宮大学	
平成 18 年 8 月 10 日	畑地整備研究部会	企画セッション 	畑地かんがいの現況と今後の課題	宇都宮大学	
平成 18 年 8 月 10 日	農村生態工学研究部会	企画セッション 	生態系配慮技術の向上に向けて	宇都宮大学	
平成 18 年 9 月 1 日	資源循環研究部会	平成 18 年度研究発表会 	人、家畜、農村をとりまく資源循環の構築を目指して（仮題）	パシフィコ横浜	74巻7号
平成 18 年 9 月 7 日	畑地整備研究部会	第 45 回畑地かんがい研究集会 	土に沿った畑作と畑地かんがい	いわて県情報交流センター	74巻7号
平成 18 年 9 月 7 日～8 日	農村計画研究部会	第 28 回現地研究集会 	水土で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ	熊本テルサホテル	74巻6号7号
平成 18 年 9 月 26～27 日	農地保全研究部会	第 27 回研究修会 	環境と調和した農地保全	北見芸術文化ホール	74巻6号
平成 18 年 10 月 11～12 日	九州支部	第 29 回地方講演会 第 37 回支部研修会 		佐賀市アバンセ	74巻6号
平成 18 年 10 月 15 日	土壌物理研究部会	第 45 回研究集会 	期待される土壌物理学（仮題）	北海道大学（予定）	
平成 18 年 10 月 24～25 日	九州支部	第 87 回支部講演会・シンポジウム 		ウェルシテイ宮崎	74巻7号
平成 18 年 10 月 25 日	北海道支部	第 55 回支部研究発表会 		帯広市とかちプラザ	74巻7号
平成 18 年 10 月 25～26 日	東北支部	支部総会・第 50 回研究発表会 第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会 		山形県高度技術開発センター	74巻7号
平成 18 年 10 月 26 日	関東支部	第 57 回支部講演会 		前橋市	74巻6号
平成 18 年 10 月 26～27 日	中国四国支部	第 61 回支部講演会 		米子コンベンションセンター	74巻6号7号
平成 18 年 11 月 9 日～10 日	京都支部	第 63 回支部研究発表会 		大阪リバーサイドホテル	74巻5号7号
平成 18 年 11 月 15～16 日	中国四国支部	第 35 回支部研修会 第 30 回地方講習会 		松山市男女共同参画推進センター	74巻7号
平成 18 年 11 月 16 日～17 日	水文・水環境研究部会	第 19 回シンポジウム 	農林地および広域の水文・水環境	島根大学	74巻5号
平成 18 年 11 月末	農業水利研究部会	平成 18 年度研修会	（未定）	東京都	
平成 18 年 12 月 （予定）	応用水理研究部会	講演会	（未定）	（未定）	
平成 19 年 2 月 （予定）	材料施工研究部会	第 44 回シンポジウム	構造物の損傷に関する非破壊探査（予定）	兵庫県神戸市（予定）	
平成 19 年 3 月	水土文化研究部会	シンポジウム	水土文化研究の現在（仮題）	つくば農林団地（予定）	

学会・CPD 入会キャンペーン実施中

(社) 農業土木学会・農業土木技術者継続教育機構

農業土木学会(学会)および農業土木技術者継続教育機構(CPD 機構)では、平成 18 年 6 月 6 日～9 月 30 日の間“入会キャンペーン”を実施しています。キャンペーン期間中、学会の正会員および学生会員に入会された方、および学会と CPD 機構に同時入会された方に、下記の割引特典があります。この機会には是非ご入会をお願い致します!

キャンペーン期間 平成 18 年 6 月 6 日(火)～平成 18 年 9 月 30 日(土)

特典内容

A) 学会に新規入会した正会員の平成 18 年度年会費を半額とします

9,600 円 キャンペーン特価 4,800 円(66 歳以上は 2,400 円)

B) 学会および CPD 機構へ同時入会された正会員には、さらに CPD 機構への入会金 1,000 円を免除致します

* 入会時に同時入会である旨お知らせ下さい

(通常) 9,600 円 + 1,000 円 + 2,500 円 = 13,100 円

学会年会費 機構入会金 機構年会費

(キャンペーン特価)

4,800 円 + 1,000 円 + 2,500 円 = 7,300 円

学会年会費 機構入会金 機構年会費 (66 歳以上は 4,900 円)

C) 学会に新規入会した学生会員には、農業土木標準用語事典の購入価格を割り引きします

(学部学生の場合)

通常：学会年会費 2,500 円 + 用語事典 4,500 円 = 7,000 円

キャンペーン期間：学会年会費 2,500 円 + 用語事典 2,300 円 = 4,800 円

(大学院生の場合)

通常：学会年会費 5,500 円 + 用語事典 4,500 円 = 10,000 円

キャンペーン期間：学会年会費 5,500 円 + 用語事典 2,300 円 = 7,800 円

入会方法はお電話、または E-Mail にて下記へお問合わせ下さい。

社団法人農業土木学会 会員担当 花塚 賀央

☎03 3436 3418 E-Mail hanatsuka@jsidre.or.jp

農業土木技術者継続教育機構 吉本 峰子

☎03 5777 2098 E-Mail mineko@jsidre.or.jp

社団法人農業土木学会第 39 回通常総会の報告

第 39 回通常総会を開催したので、報告いたします。

1. 日 時 平成 18 年 5 月 17 日(水) 15:00～16:00

2. 場 所 農業土木会館 6 階大会議室

3. 出席者(代議員総数 110 名)

佐々木雄康, 黒子高夫, 小前隆美, 藤巻宣弘, 西田憲史, 斉藤正樹, 大島洋介, 藤永和生, 田上直美, 坂根 勇, 寺岡清澄, 黒川義夫, 塩崎和男, 鐘ヶ江幸博, 義経賢二, 石川善成各代議員ほか, 委任状提出による代議員 83 名, 計 99 名

4. 開 会

事務局より出席者(委任状提出者も含む)が、定款第 30 条の規定の定足数に達していることを確認し、有効に成立している旨を告げ、開会を宣した。

5. 会長挨拶 田中忠次会長挨拶

6. 議長選出

田中忠次会長を仮議長とし、定款第 8 条の規定により議長選出を諮り、全員一致をもって小前代議員を議長に選出した。

7. 議事録署名人名選出

議長への指名一任により、議長は次の 2 名を指名し、議事録署

名人に選出した。

斉藤正樹代議員, 坂根 勇代議員

8. 議案審議

(1) 議案 1.平成 17 年度事業報告

事務局から「第 39 回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。

(2) 議案 2.平成 17 年度収支決算

事務局から「第 39 回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。

(3) 議案 3.平成 18 年度事業計画

事務局から「第 39 回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。

(4) 議案 4.平成 18 年度収支予算

事務局から「第 39 回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。

(5) 議案 5.名誉会員の推挙

事務局から「第 39 回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。

(6) 議案6 第20期役員を選任

事務局から役員選任方法(代議員による選挙等)について説明。定款付則(平成12年5月24日第31回通常総会議決)3の規定により、平成18年5月31日をもって、任期満了となるので定款第19条第1項の規定により、下記役員27名を6月1日より2年間を役員として選任(再選され重任する役員11名、新たに就任する役員16名)された。

再選され重任する役員(11名)

理事 青山 咸康, 岩崎 和己, 赤江 剛夫, 天谷 孝夫,
河野 英一, 古賀 潔, 中島 克己, 橋本 正,
水主 洋三, 宮本 幸一

監事 池田 文雄

新たに就任する役員(16名)

理事 秋吉 康弘, 足立 忠司, 大久保 博, 太田 信介,

長田 一明, 河地 利彦, 河原 正彦, 後藤 章,
月岡 存, 中曽根英雄, 中島 治郎, 長谷川周一,
原田 幸治, 元杉 昭男, 山路 永司

監事 石川 重雄

9. 閉会

議長は、以上をもって全議案の審議を終了した旨を述べ、総会は終了した。上記議決を明らかにするために、議長及び議事録署名人は次に記名押印する。

平成18年5月17日

社団法人農業土木学会第39回通常総会

議長 小前 隆美

議事録署名人 斉藤 正樹

議事録署名人 坂根 勇

平成18年度名誉会員の推挙

第39回通常総会の議により、平成15年12月19日改正の名誉会員推挙の内規に則って次の正会員(敬称略)を名誉会員に推挙し、これにより名誉会員の現在数は163名になりました。

石井 宏 会員を30年以上継続した80歳以上の者
広嶋 常次 会員を30年以上継続した80歳以上の者
内山 博量 会員を30年以上継続した80歳以上の者
武藤 一夫 会員を30年以上継続した80歳以上の者
片場 益次 会員を30年以上継続した80歳以上の者
木谷 収 理事(2期4年)
川田 弘二 理事(2期4年)
杉浦 英明 評議員(2期4年)
佐々木敦夫 評議員(2期4年)
高橋 昇 評議員(4期8年)
横瀬 広司 評議員(4期7年)
森本 茂俊 理事(2期4年)
末松 雄祐 評議員(3期6年)

「名誉会員の推薦に関する内規」

(昭和36年3月24日理事会)

(昭和50年2月24日改正)

(平成9年12月16日改正)

(平成10年2月20日改正)

(平成15年12月19日改正)

名誉会員候補に推薦される方は、次の各項のいずれかに該当するものとする。

1. 学会の運営または学会の発展に尽力された正会員で、次のいずれかに該当する者

(1) 会長をつとめた65才以上の者

(2) 役員をつとめた70才以上の者

(3) 各種委員会委員長, 評議員, 代議員等の在任期間の合計が4年以上を超え, 70才以上の者

(4) 会員を30年以上継続した80才以上の者

2. 農業土木に関する研究または技術に関し、とくに功績が顕著であると認められた70才以上の者で、農業土木学会賞学術賞またはそれに相当する賞を受賞された者

3. その他特に理事会において認められた者

付則 この改正内規は、平成15年12月19日から施行する。

第20期理事役職者の選任および会務分担について

平成18年6月5日開催の第197回理事会において、理事役職者の互選が定款第9条(役員を選任)および、本会規則第14条(理事の担当)および第26条(委員長・委員・幹事)により、第20期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のとおり決めました。

記

1. 役員を選任

- 会 長 青山 咸康 (京都大学大学院農学研究科教授)
- 副 会 長 太田 信介 ((独)水資源機構副理事長)
- 副 会 長 中曽根英雄 (茨城大学農学部教授)
- 副 会 長 元杉 昭男 ((社)地域資源循環技術センター専務理事)
- 専務理事 岩崎 和己 ((社)農業土木学会)

2. 担当部門および担当理事

担当部門	総括する副会長	担当理事
運營業務	太田 信介	長田一明, 後藤 章, 中島治郎, 橋本 正, 水主洋三, 山路永司
学会誌等定期刊行物活動	中曽根英雄	河地利彦, 古賀 潔, 原田幸治, 水主洋三, 宮本幸一, 長谷川周一, 大久保 博, 河野英一, 天谷孝夫, 足立忠司, 秋吉康弘
講演会等行事活動	元杉 昭男	長田一明, 河原正彦, 中島克己, 橋本 正, 原田幸治, 宮本幸一
調査・研究活動	中曽根英雄	赤江剛夫, 古賀 潔, 月岡 存, 中島克己, 中島治郎
出版活動	元杉 昭男	赤江剛夫, 河原正彦, 中島治郎, 山路永司
国際活動	中曽根英雄	河地利彦, 後藤 章, 原田幸治
技術者教育活動	太田 信介	長田一明, 河地利彦, 河原正彦, 月岡 存, 中島克己, 橋本 正, 原田幸治, 水主洋三, 宮本幸一
支部業務	太田 信介	中曽根英雄, 元杉昭男, 長谷川周一, 大久保 博, 河野英一, 天谷孝夫, 足立忠司, 秋吉康弘

3. 常置委員会委員長等

企 画	委員会	橋本 正	広 報	委員会	中島 治郎	学術基金運営	委員会	太田 信介
定期刊行物	"	中曽根英雄	学会誌編集	"	河地 利彦	論文集編集	"	古賀 潔
PWE 日本	"	原田 幸治	研 究	"	赤江 剛夫	上野賞選考	"	中島 克己
学会賞選考	"	中曽根英雄	出版企画	"	山路 永司	国 際	"	後藤 章
行事企画	"	元杉 昭男	JABEE 担当		月岡 存	継続教育機構担当		原田 幸治
スチューデント委員会担当		後藤 章						

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の改定について

このたび、標記土地改良事業計画設計基準が改定され、平成 18 年 6 月に発行されました。判型、ページ数、販価は下記のとおりです。ご希望の方は下記あてお申込下さい。なお、改定の趣旨は本誌 pp.61~62 を参照下さい。

記

1 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」

A4 判 約 300 ページ
定 価 3,500 円 (消費税内税, 送料学会負担)

2 申込方法

役所等で、公用として購入される場合
FAX でお申込下さい。様式は問いません。

ご希望部数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

個人、会社で購入される場合

現金書留：書籍代と書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

3. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業土木学会事務局 担当：河合

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

Historical Heritage :People Who Promoted Land and Water Resources
Development in Japan の刊行について
学会創立 70 周年記念出版「水土を拓いた人びと」英語版

学会創立 70 周年記念出版「水土を拓いた人びと」の英語版（同書中の 10 編）が、このたび刊行となりました。

本書は北海道から沖縄までのわがふるさとの先達たちが、よりよき国土を築くために果たした功績を整理し残していくことで、これからの発展の礎とすることを目的として編まれたものです。このたび英訳されたものは、この中から下記のような 10 編となっております。

記

1 A4 判 104 ページ

2 定 価 1,900 円（消費税内税，送料学会負担）

3 目次

Part 1 Wisdom based on "Land and Water"

Wisdom based on "Land and Water", the Foundation for a Paradigm Shift Historical Study of the "Wisdom based on Land and Water"

Part 2 Historical Heritage:People Who Promoted Land and Water Resources Development in Japan

Comprehension and Management of Land Water Resources;

・ KUMAZAWA Banzan Harmonizing Universe and Human Being in Promoting Soil Conservation and Flood Control Works

Comprehensive Development Centering on Agricultural Water Use;

・ O'HATA Saizo , A Pioneer of Irrigation Engineering Who

Built A Number of Irrigation Systems

・ NONAKA Kenzan and OGURA Shosuke and Sansei , Who Endeavored to Develop New Paddy Fields in the TOSA-HAN

・ NARIDOMI Hyogo Shigeyasu , Who Built Irrigation Systems in SAGA-HAN and Laid the Foundation of Agriculture in SAGA

Technologies for Farmland Development;

・ FUJII Juzaburo , Who Promoted Land Consolidation and Integrated Rural Development

・ OGAWA Gombe , Who Opened New Paddy Fields in Polders by Contract with CHOSHU-HAN

・ TOMITA Jimpei , Who Developed the Subsurface Drainage System , still Extensively Being Used

Organization of People Engaged in Land and Water Development;

・ IZUMI Rintaro; Founder of the Water Users' Association and Forerunner in the Enactment of the "HOKKAIDO DOKO-KUMIAI Law"

・ NINOMIYA Sontoku , A Pioneer in Renovating Irrigation Canals and Reclaiming Wasteland Encouraging Farmers' Initiatives

・ O'HARA Yugaku , Founder of the World's First Agricultural Cooperative

平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について（再）

平成 19 年度の農業土木学会賞（上野賞，沢田賞を除く）を，第 74 巻 6 号，p 69 の募集要項に則って，推薦書によりご推薦下さい。

締切りは，平成 18 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

平成 19 年日本農学賞候補の推挙について

平成 19 年度日本農学賞の候補を下記によりご推挙いただきたいと存じます。適当と認められる候補がありましたら下記規程により，平成 18 年 9 月 15 日までにご推薦下さいますよう，お願い申し上げます。

記

日本農学賞候補推挙取扱規程

第 1 条 この規程により，本会会員で次の条に該当する業績をあげたものに対し，日本農学賞候補に推挙する取扱いを行う。

第 2 条 推挙する業績は，発表された論文または著書とし，本学会を代表する業績として，十分その価値が評価されるものとする。

第 3 条 推薦者（正会員）は，毎年 9 月 15 日までに，次の事項を記し，会長に推薦する。

ただし，必要ある場合は推薦者に関係資料の提出を求めることができる。

（イ）候補業績（論文，著書名）

（ロ）候補者氏名（ふりがな）

（ハ）候補者所属，職名，学位

（ニ）候補者連絡先

第 4 条 推挙の決定は，理事会が行う。

第 30 回水の週間「ウォーターフェア 06 東京」農業用水の展示出展について（再）

農業用水展示実行委員会

国土交通省，東京都，水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア 06 東京』は，例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として，農業土木関係諸団体の協力を得て，農業土木学会が農業用水展示実行委員会を組織し，昨年度までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。

出展準備は，関東農政局西関東土地改良調査管理事務所が鋭意

行っております。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示テーマ 「お～い水！ 豊かさを運ぶ」

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園 2 - 1）

期 日 平成 18 年 7 月 28 日～8 月 1 日

平成 18 年度農学系 JABEE 研修会への参加のお願い（第 2 報）

技術者教育認定に関する検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も農学系 JABEE 審査員養成研修会が 7 月 29 日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。奮って，ご参加ください。

（なお，プログラム等，詳細は農業土木学会ホームページをご参照下さい）

日 時：2006 年 7 月 29 日（土）9：30～17：50

（17：50 より意見交換会有）

場 所：東京大学弥生講堂

〒113 8657 東京都文京区弥生 1 1 1 東京大学農学部内

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

参 加 費：5,000 円（当日現金にて支払い）

意見交換費：2,000 円（当日現金にて支払い）

申込み方法：農業土木学会ホームページより，申込書および審査員登録票（電子メール版）をダウンロードし，必要事項を記入の上，下記の学会に電子メールで申込み下さい。

申 込 先：農業土木学会事務局 菊辻 猛・花塚賀央
hanatsuka@jsidre.or.jp

締切：平成 18 年 7 月 21 日（金）（第 1 報の締切日を延長しました）

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では，近年における地震，豪雨等による災害が各地に発生し，農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み，それら災害の原因究明，復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として，災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では，農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害，学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害，に対して，災害発生後，直ちに災害対応調査団を派遣し，調査の実施，復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで，災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に，早急に対応できるように，事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は，災害対

応調査団候補者名簿（2 年毎更新）に記載して，緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお，災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は，高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は，候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は，原則 2～3 日とする。

調査団派遣に関わる旅費は，農業土木学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。

調査団員に対して，調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地

質・地理， 環境， 地域（農村）計画， 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， 集落排水， その他

なお、登録頂いた個人情報には、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育の試行を平成 18 年 10 月まで延長し、より広く情報を伝えることといたしました。延長試行期間中いつでも参加可能です。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

1. 参加会員の募集

この試行に参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール (E mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX 03 5777 2099 へ送信してください。

今回の試行が成功し、本格運用へ移行するためには、多くの会員の参加が必要です。しかし現在、少数であり本格実施のために、周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加をお願いします。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

2. 申込期限

この試行への参加は、いつでも可能です。短期間であって

も参加し、意見をお寄せ下さい。

3. 試行の事務局

試行の事務局は、機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

4. 試行の内容

3 カ月前の学会誌の報文を主体に機構試行部会が作成した問題を毎号学会誌に掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問を掲載します。報文の事実的内容から作成し回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から 7 割正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が与えられ、継続教育記録として自動的に登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 試行の評価と本格運用への移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、修正を加えた上で本格運用に移行したいと考えています。

なお、本誌に継続教育機構の広報ページ「CPD ニュースレター」を掲載しています。是非ご参照下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003 年 1 月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006 年 3 月末には Vol 4 No. 1 (Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems) が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）

- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流，情報交換の場として，皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊，以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先：農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込みは，学会 HP (http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたは FAX でお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して，新たな国際学会「国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering」を設立し，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2006年3月末には Vol 4 No.1 (Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems) が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に，SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており，本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は，Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転：2003年1月の学会設立以来，農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが 2006年1月1日からは新 Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下，韓国農業工学会が今後 3 年間（～2008年12月31日まで），編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い，Editorial Panel の構成メンバー（編集体制）および新投稿先が下記ようになります。

ただし 2005年12月末までに投稿された原稿は，日本（農業土木学会）の責任において進められ，Accept されたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等 である。

編集体制 2006.1.1～2008.12.31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)

Kyoto, Japan
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG
 Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）
 投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。
 投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4ページ厳守)
74巻 8号 湿原・湿地の管理と環境保全II 湿地としての農地管理	公募終了	
9号 圃場整備と農業生産法人(仮)	公募終了	
10号	公募なし	
11号 モニタリング技術の最前線(仮)	公募終了	
12号 北海道における大規模畑地整備(仮)	公募なし	平成18年7月14日
75巻 1号 「水土の知」について(仮)	公募なし	平成18年8月15日
2号	公募なし	
3号 新潟中越地震関連(仮)	平成18年8月25日	平成18年10月13日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集がテーマは仮題となっておりますものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上げ4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E-mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」・「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上げ1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ：1,200字(写真・体裁等含む刷り上げ1ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「農業土木学会誌」平成19年夏季用の表紙写真の募集

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で、学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち、特に夏季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えて

きました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間

見える造形美」を、学会誌の表紙写真で紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで六ツ切り。デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成 18 年 9 月 29 日（夏季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選びます。

7. 結果発表

学会誌 75 巻 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 19 年度大会会場でパネル展示します。

8. 賞品

入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお送りします。

9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）を記入して下さい。対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4 (社)農業土木学会
農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集

農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第 1 弾として会員の松本精一（財）建設物価調査会総合研究所部長が投稿された「(京都の)桂川「一の井堰」物語」を掲載しております。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募っておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめていきたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、会員の方に親しまれる内容のものを目指したいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様が書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

国際水田・水環境工学会 2006 年 (第 4 回) 国際研究集会の開催について
 テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ()

PAWEES 2006 (4th) International Conference On
 Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production ()

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



主催: 国際水田・水環境工学会

PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

共催: 農業土木学会, 韓国農工学会, 台湾農業工程学会

趣旨

国際研究集会 [持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理] は, 周辺環境との調和に配慮した持続的水田水管理の適切な技術とその応用に関する最新の研究についての情報交換を目的として, 以下の内容の下に開催されることとなりました。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み

キーワード: 実施事例, 機能定量化, 社会・経済性評価など

2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理

キーワード: 土地利用計画, 資源の高度利用, 参加型管理など

研究集会では, 最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに, 水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し, 将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに, 過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し, 食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることとします。

また, 日本の研究者・技術者が過去に築いてきた関係国・地域, 関係研究機関等との連携を強化し, その他諸国の広汎な連携を推進することも意図しています。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立されました。設立の主な目的は, 第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題, なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を, 流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに, 環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し, その国際化を図ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

水田・水環境に関連する研究・技術に携わっておられる方々にとっては, 意義のある研究集会です。奮って参加されますよう, お知らせいたします。

1. 日 時: 2006 年 8 月 10 (木) ~ 11 日 (金)

2. 場 所: 宇都宮大学農学部

3. テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ()

4. 講演発表の募集 (終了しました)

5. 主要なスケジュール

- 1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始

: 平成 18 年 3 月 20 日 (月) (終了)

アブストラクトの提出期限

: 平成 18 年 4 月 16 日 (日) ("

原稿採択通知 (E mail): 平成 18 年 4 月 26 ~ 30 日 ("

採択原稿の提出期限 : 平成 18 年 6 月 30 日 (金) ("

- 2) 参加登録:

登録期間: 平成 18 年 3 月 20 日 ~ 7 月 20 日

(参加者が少数のため, まだ十分な余裕があります。)

参加登録費: 5,000 円

講演要旨集は, 研究集会当日にお渡しします。

6. 問合わせ先

松野 裕 (PAWEES 2006 事務局長)

近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町 3327 204

メールアドレス: matsuno@nara.kindai.ac.jp

馬目 雄一 (農業土木学会編集出版部次長)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4

農業土木会館 3 階 1 号室

メールアドレス: pawees2006@jsidre.or.jp

プログラム (予定)

8 月 10 日 (木)

10:00 ~ 10:30 Opening and Welcome Addresses

Dr. Yohei SATO (Chairperson of Organizing Com.)

1. Dr. Soon-Kuk KWUN (President of PAWEES)

2. Mr. Shen-Hsien CHEN (President of CSAE)

10:30 ~ 12:30 Award Ceremony Greeting Address

Dr. Soon-Kuk KWUN (President of PAWEES)

Report on the Selection Process and Awardees: Int. Awards;

Dr. Yohei SATO, Paper & Reviewer Awards; Dr. Yoshisuke

NAKANO

- Award Presentation and Awardee's Speech
 Chair Person : Dr. Yoji KUNIMITSU
- 13 : 30 Session 1 : Policies and practices for enhancing ecological services in rice paddy area (8 Reports)
 Chair Person : Dr. Chun G. YOON
- 13 : 40 ~ 14 : 00 Policy and Extension of Paddy Fields Multi-Functionality in Taiwan
 Ming-Hua TSAI, Wei-Tao LIN, Yi-Fong HO and Chih-Hung TAN
- 14 : 00 ~ 14 : 20 Applying Habitat Assemblage Change MDS Analysis for Water Policy Decision-Making in Chu-Lan Paddy Drainage
 CHEN, S. -H. WANG, Y. -F. and CHUANG, M. -D.
- 14 : 20 ~ 14 : 40 Using Bargaining Model to Optimize Water Resources Allocation
 ZHAO Wei and HUANG Jiesheng
- 14 : 40 ~ 15 : 00 Water Management of Paddy Fields for Conserving Wildlife Habitats
 Tsugihiko WATANABE
- 15 : 20 ~ 15 : 40 Sub-Area based modeling of flood inundation in the Mekong Delta, Cambodia
 Sothea KHEM, Akira GOTO and Masakazu MIZUTANI
- 15 : 40 ~ 16 : 00 The Use of Shallow Groundwater as Irrigation for Rice Cultivation
 Satyanto Krido SAPTOMO, Budi Indra SETIAWAN, Yoshisuke NAKANO, Masaharu KURODA and RUDIYANTO
- 16 : 00 ~ 16 : 20 Sustainability of Organic Farming in Rice Intensification : Case Study in Sukabumi, Indonesia
 GARDJITO, Budi Indra SETIAWAN, Akira GOTO and Tasuku KATO
- 16 : 20 ~ 16 : 40 Valuation and Future Directions for Multi-functionality of Paddy Farming in Korea
 Tai-cheol Kim, Dae-sik Kim, Uhn-Soon Gim*, Jin-soo Kim
- 16 : 40 ~ 17 : 10 DISCUSSION
- 18 : 00 ~ 20 : 00 Reception
 Chair person : Dr . Yutaka MATSUNO
 Reception Speech Dr. Toshio SAWADA
 Dr. Shigeyasu AOYAMA
 Mr. Yasuro NAKAJO
- 8月11日(金)
- 9 : 00 Session 2 : Integrated resource management on river basin harmonizing with rice paddy culture
- 9 : 10 ~ 9 : 30 Management Of Land And Water Resources For Diversifying The Paddy Production Sytems In The Mekong Delta (Vietnam)
 NGUYEN VAN NHAN
- 9 : 30 ~ 9 : 50 Field observation of methane and nitrous oxide emission from practical paddy fields
 Toshiaki IIDA, Takeshi INOUE, Kazumasa MUNEOKA, Kaoru NAITO , Makoto FUKUDA and Takatsugu SUDA
- 9 : 50 ~ 10 : 10 Changes of nutrient loads of paddy-fields caused by crop rotation from rice to wheat
 Yoshitaka SUGIMOTO, Takao KUNIMATSU and Yukio KOMAI
- 10 : 20 ~ 10 : 40 An analysis on huge-size rice paddy plots constructed in land consolidation projects in Japan today
 Atsushi ISHII
- 10 : 40 ~ 11 : 00 The effects of spatial variability of land use on stream water quality in a coastal watershed
 Sang-Woo LEE and Chun G. YOON
- 11 : 00 ~ 11 : 20 DISCUSSION
- 11 : 20 ~ 12 : 00 Summing-up Session
 Chair Person : Dr. Ke-Sheng CHENG
- Agenda I Country Report on PWE Publication
 1 Korea 2 Taiwan 3 Japan
- 12 : 00 ~ 12 : 30 Agenda II PAWEES (Tochigi) Statement
- 13 : 30 ~ 13 : 40 5th International Conference on Educational Accreditation System and APEC Engineers Project for Agricultural Engineering in Paddy Farming Regions
 Chair Person : Dr. Takao MASUMOTO
- 13 : 40 ~ 14 : 40 Agenda I Country Report on Educational Accreditation System 1 Taiwan 2 Japan 3 Korea
- 14 : 40 ~ 15 : 40 Agenda II Country Report on APEC Engineering Project 1 Japan 2 Korea 3 Taiwan
- 15 : 40 ~ 16 : 40 Agenda III Publishing the Textbook for Agricultural Engineers in Paddy Farming Regions
 Dr. Y. NAKANO
 Dr. Y. MATSUNO & K. NAKAMURA
- 16 : 40 ~ 17 : 00 Agenda IV (Tochigi) Statement (on Engineering Education etc.)
- Closing Ceremony
 Dr. Tai-Cheol KIM

第5回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議
(5th International Conference on Educational Accreditation System and
APEC Engineers Project for Agricultural Engineering
in Paddy Farming Regions) の開催について

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



当会は韓国農業工学会、台湾農業工程学会との共催で平成14年より表記会議を開催してきました。第1回はWWFのプレシンポジウム、第2回はWWF3の開催時に京都市で開催、平成16年は韓国安山市、平成17年は台湾台北市で開催され3年振りに日本で下記要領で開催されます。会議における話題提供は、各国学会代表者により行われますが、今回は公開で行います。JABEE、技術士、APECエンジニア等、技術者資格に興味のある方々の参加を募ります。会場の準備もありますので、希望者は当学会事務局にお申込み下さい。

記

1. 日 時 平成18年8月11日(金) 13:30~17:00
2. 場 所 宇都宮大学多目的ホール(平成18年度農業土木学会大会講演会第1会場)
3. 議 題
 議題1. 技術者教育認定システムについての各国報告
 (台湾、日本、韓国から報告予定、日本からはJABEE

の最近の動きについての報告を予定)

- 議題2. APEC エンジニアをめざした技術者育成についての各国報告
 (日本、韓国、台湾から報告予定、日本からはCPD機構、APEC エンジニアをめぐる動きについての報告を予定)
- 議題3. 水田農業地域における農業工学の技術者のための教科書出版について
 (各国技術者に共通的な教科書出版の必要性、計画について議論する予定)

4. 事務局

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
 (社) 農業土木学会調査研究部 菊辻・小松山
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
 E mail: tkiku@jsidre.or.jp

第55回北海道支部研究発表会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成18年10月25日(水)
2. 会 場 帯広市・とかちプラザ(帯広市西4条南13丁目)
3. 研究発表申込み
 発表を希望する方は原稿投稿に先立ち、発表表題・発表者名と、発表形式の希望(口頭またはポスター)を、メール、FAXまたは郵送にてお申込下さい。
 発表申込みの締切は、平成18年8月21日(月)です。
 発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。
 講演集原稿の締切は、平成18年9月15日(金)です。
4. 参加申込み
 下記様式により、メール、FAXまたは郵送にてお申込下さい。
 参加申込みの締切は、平成18年10月13日(金)です。

所属機関 _____
 同上所在地 _____
 申込代表者 _____ TEL _____

氏 名	所 属	備 考

5. 発表・参加申込先

〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内
 農業土木学会北海道支部事務局
 担当: 柏木淳一 E mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
 ☎011 706 3641 FAX 011 706 4145

6. 参加費用

研究発表会講演集代 2,000円(当日会場にて申し受けます。)

平成 18 年度東北支部総会・第 50 回研究発表会
並びに第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会について（第 1 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成 18 年 10 月 25 日（水）、26 日（木）
2. 会 場 山形市 アルカディアソフトパーク内
山形県高度技術研究開発センターほか
〒990 2473 山形市松栄二丁目 2 1
☎023 647 3130

3. 内 容

	午前	午後
10 月 25 日（水）	支部総会，授賞式 記念講演	研究発表会，情報交換会
10 月 26 日（木）	支部研修会	地方講習会

4. 研究発表申込みと参加費について

平成 18 年度の大会全般を山形県が担当しますが，研究発表会のプログラム編集は山形大学が担当します。

そこで、『研究発表申込み』と『参加申込み・参加費納入先』が，それぞれ下記のように異なりますので注意してください。

A. 研究発表申込み方法

- (1) 研究発表申込み / 問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて，下記へお申込みください。

〒997 8555 山形県鶴岡市若葉町 1 23
山形大学農学部 安中 武幸（あんなか たけゆき）
☎0235 28 2903，FAX 0235 28 2901
E Mail：annakt@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

(2) 要 領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については農業土木学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）を参照してください。

(3) 研究発表申込み受付期間

平成 18 年 8 月 7 日（月）～平成 18 年 9 月 4 日（月）【締切厳守】

B. 参加申込みと参加費納入先 / 問合せについて

参加申込みと参加費納入先は，本誌第 74 巻 8 号掲載予定の「第 2 報」を参照してください。

第 63 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 18 年 11 月 9 日（木）
10：00～17：00（受付開始 9：30～）
(2) 会場（開会式～講演会～分科会）
大阪リバーサイドホテル（大阪市都島区中野町 5 丁目 12 番 30 号）☎06 6928 3251
(3) 会場までのアクセス
・JR 大阪環状線 桜ノ宮駅から徒歩 約 5 分

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 18 年 11 月 9 日（木）18：00～20：00
(2) 会場 大阪リバーサイドホテル

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 18 年 11 月 10 日（金）2 コース設定
・河内コース 集合 9：00 JR 大阪駅
解散 17：00 JR 新大阪駅
・泉州コース 集合 9：00 JR 大阪駅
解散 16：00 関西空港 17：00 JR 新大阪駅
(2) 内容
・河内コース「大阪の農業用水路を知り，企業の活力を学ぶ」
長瀬川...大和川の付け替え工事に伴い造成された歴史ある水路で，疎水百選に選定されました。水辺環境づくり

活動を積極的に展開しています。

クリエイション・コア東大阪...全国有数の中小企業の街を支える，ものづくりに関する総合的な支援施設です。中小企業の技術力により人工衛星の開発を行う東大阪宇宙開発協同組合等が入居しています。三箇牧浄水機場...日本最大規模の回転円盤法による浄化施設です。また，関連する淀川右岸水路では，水辺環境づくり活動に活発に取り組んでいます。

・泉州コース「土木技術の昔と今を知る」

狭山池...飛鳥時代に建造された，日本最古のため池です。堤体断面模型によるため池改修の歴史や，飛鳥時代の樋の実物を見学します。

久米田池...僧行基が築造したと言われる，満水面積府下最大のため池です。地域住民により活発な環境保全活動が行われています。

関西国際空港...二期空港島の見学や，大規模工事における環境配慮事例としてグラスボートによる藻場の観察を行います。

4. 投稿の申込等

- (1) 原稿投稿先および期限
研究発表申込みをされた方は，下記の投稿要領に基づき作成

した講演要旨原稿に投稿票を添えて、平成18年7月末日までに、下記に届くようお送りください。

〒501 1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部生物環境科学講座西村 直正

& Fax 058 293 2883 E mail : nnishi@cc.gifu-u.ac.jp

(2) 投稿要領

- ・投稿発表者は、農業土木学会会員とします。
- ・投稿要領および原稿の書き方については、農業土木学会ホームページ内の「支部講演会の投稿票について」(<http://www.jsidre.or.jp/news/kaikoku/shibu.pdf>)を参照してください。枚数は図面を含めて2枚とします。発表時間は12分(質疑応答は3分)です。原稿はそのまま印刷しますので鮮明なものを提出してください。発表の補助道具としてパソコン(OSはウィンドウズ、ソフトはパワーポイント2000)およびビデオプロジェクターを準備します。データはできる限りCD-Rで用意ください。(OHPを希望する場合はご連絡ください。)

5. 参加申込方法

(1) 参加申込

参加申込は、農業土木学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加要領(<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyotosanka.htm>)にアクセスし、参加申込書をダウンロードしてください。参加申込書に必要事項を記載の上、電子メールにて noudo-kyo@jtbcom.co.jp まで送付して頂きますようお願い致します。(電子メールが使用できない場合は、FAX・郵送でも受付致しますが、事務の簡素化のため電子メールの使用にご協力をお願いします。)

(2) 申込期限 平成18年8月31日(木)

(3) 参加費等 研究発表会 4,500円
情報交換会 5,000円
現地研修会 6,000円(昼食代含む)

(ア) 昼食

会場付近にレストラン等が少ないため、混雑が予想されます。弁当を1,000円/個で受け付けていますのでご利用

ください。

(イ) 参加費の納入

申込を受付けた後、(株)ジェイコムより9月下旬以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「6.申込・振込先」の振込先へ10月13日(金)までにお振り込みください。振込手数料については振込人負担をお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋を(株)ジェイコムを通じて行います。ご希望の方は、宿泊斡旋施設学会ホームページ上の一覧表の中から施設をお選びいただき、参加申込書に該当するホテルの記号を記載して下さい。なお、客室数の都合上希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

6. 申込・振込先

(1) 申込先

(株)ジェイコム コンベンション事業部 担当: 林, 今井
〒530 0001 大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号

ハービス ENT 11階

申込用電子メールアドレス noudo-kyo@jtbcom.co.jp

(取り消しも電子メールで結構です。)

☎06 6348 1391 FAX 06 6456 4105

営業時間:(月~金)9:15~18:00/土・日・祝日は休業日

(2) 振込先

三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通口座 325783

口座名 株式会社 ジェイコム

7. 問合わせ先

大阪府環境農林水産部農政室内

第63回農業土木学会京都支部研究発表会運営委員会事務局

担当 永井, 大川

☎06 6944 6034(直通) FAX 06 6944 6752

E mail : OtoshiM@mbox.pref.osaka.lg.jp

第61回中国四国支部講演会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成18年度中国四国支部講演会を10月26日(木)・27日(金)の2日間にわたり、開催いたします。本講演会の講演申込みについては下記のとおりです。多数の講演申込みをお待ちしております。

・日程 平成18年10月26日(木)~10月27日(金)

1. 講演会

(1) 日 時: 平成18年10月26日(木)

(2) 会 場: 米子コンベンションセンター ビッグシップ

〒683 0043 鳥取県米子市末広町294

☎0859 35 8111 FAX 0859 39 0700

9:00~ 受付開始

9:30~9:45 開会式 小ホール

9:45~10:00 支部表彰式 "

10:10~11:00 特別講演 "

11:15~17:00 一般講演

第一会場 センター内会議室

第二会場 "
第三会場 "

17:00～17:15 閉会式 小ホール

2. 情報交換会

- (1) 日 時：平成 18 年 10 月 26 日（木） 18:00～
- (2) 会 場：レストラン ル・ポルト（米子コンベンションセンター内）

3. 現地研修会

- (1) 日 時：平成 18 年 10 月 27 日（金）
- (2) コース：米子コンベンションセンター発 国営東伯かんがい排水事業船上山ダム他【現地研修】 昼食 国営中海干拓事業他【現地研修】 米子空港 JR 米子駅
行き先については変更することがあります。

・ 講演申込

1. 投稿・講演要領

- (1) 講演原稿
投稿原稿は、図、表、写真などを含め 1 課題 3 ページ以内とします。
投稿者は、農業土木学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記支部事務局宛にお送りください。投稿票ファイルは学会のホームページからダウンロードしてください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。受領確認はメールで返信しますので、受領はがきは不要です。なお、発表時間や発表方法などについては事務局から連絡をする場合がありますので、発表者（印）の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。
原稿は PDF を原則としますが、それが可能でない場合は市販の A4 版上質紙（コピー用紙などをご利用ください。感熱紙は不可）に印字したモノクロ原稿を、支部講演会投稿要領(3)に従って投稿票とともに郵送してください。
- (2) 講演資格
発表者のうち、少なくとも 1 名が学会員であることが必要です。
- (3) 講演方法
個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクタ、OHP 及びスライドを準備します。
- (4) 講演時間
1 課題につき 12 分程度です。
- (5) 講演要旨集
申込みのあった全ての原稿を講演要旨集に収録します。

- (6) 参加申込
講演者は、講演申込とは別途に参加申込（下記，JTB 鳥取支店宛）も行い、必ず参加費を納入してください。
- (7) 原稿の締切
平成 18 年 9 月 1 日（金）必着でお願いします。（遅延は不可）
- (8) 講演申込みおよび問合せ先
農業土木学会中国四国支部事務局 村上 章
〒700 8530 岡山市津島中 3 1 1
岡山大学大学院環境学研究所社会基盤環境学専攻
TEL・FAX 086 251 8881
E mail sakura@cc.okayama-u.ac.jp

2. 研鑽賞選考調査票について

当支部では、支部講演会において積極的に成果を発表した会員（大学・国立研究機関（独立行政法人近畿中国四国農業センターを含む）所属の会員を除く）を顕彰するために研鑽賞を設けております。この賞は、同一の口頭発表者が 3 年以上にわたって通算 3 回の発表を行った場合に授与されるもので、以前に受賞した人も受賞後の発表が通算 3 回に達すれば再度授与されます。
選考調査票は、この発表回数をカウントするための資料としますので、口頭発表者の今回を除く最新の講演（前受賞者は受賞対象以降のもの）2 件の題目とその年度を下記様式によりお知らせ下さい。

支部賞（研鑽賞）選考調査票

口頭発表者氏名 : _____

所 属 : _____

学会加入年度 : _____

会 員 番 号 : _____

No.	年度	講演題目

・ 参加申込

- (1) 申 込 書：所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、下記(5)までお申込み下さい。

【申込様式】

平成 18 年度農業土木学会中国四国支部講演会参加申込書

所属機関 _____

所在地（〒 - ） _____

連絡者氏名 _____

TEL： _____ FAX： _____

MAIL： _____

ふりがな 所属	ふりがな 氏名	講演 希望	【26日】 講演会 参加費 (3,000円)	【26日】 昼食代 (1,000円)	【26日】 情報 交換会 (6,000円)	【27日】 現地 研修会 (6,000円)	合計 (円)
計	人	人	人	人	人	人	円

注1)出席および必要な場合は 印,欠席および不要の場合は×印
をご記入下さい。

2)講演者は,講演希望欄に必ず 印をご記入下さい。

3)26日の講演会の昼食は,当日「弁当引換所」にて配布します。
(ただし,事前予約者のみ)

(2) 申込締切日:平成18年9月1日(金)

(3) 参加費等:講演会 3,000円

講演会を含め,講演会に参加される方は必ずお支払い下さ
い。

昼食代 1,000円 情報交換会 6,000円

現地研修会 6,000円(昼食代を含む)

(4) 参加費の納入方法

参加申込と同時に次の銀行口座に全額前納でお願いしま
す。申込後の取消,変更については,9月1日(金)以前
のお申出に限り返金いたします。なお,払込手数料につい
ては,振込人負担でお願いします。

【振込口座】

銀行名 三菱東京UFJ銀行 千代田支店

口座番号 普通 5455106

名義人 株式会社JTB中国四国

(5) 参加申込みに関する問合せ先

株式会社JTB中国四国鳥取支店 担当 岸本,中西,高垣
〒680 0846 鳥取市扇町60 TEL:0857 22 8851(代表)
FAX:0857 24 7228

(6) 学会に関する問合せ先

鳥取県農政水産部耕地課企画計画担当 池内,島崎,木村
☎:0857 26 7336(直通)0857 26 7111(代表)

(7) 宿泊案内は,農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)を参照ください。

第35回中国四国支部研修会・第30回地方講習会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

平成18年11月15日(水)から11月16日(木)

2. 会場

松山市男女共同参画推進センター(愛称:コムズ)

〒790 0003 愛媛県松山市三番町六丁目4番地20

☎089 943 5776 FAX089 943 0460

3. 問い合わせ先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係

関谷,門田,大塚

〒790 8570 愛媛県松山市一番町4丁目4 2

☎089 912 2540(係ダイヤルイン) 089 941 2111(代表)

FAX089 921 9579

平成18年度(第87回)九州支部講演会・シンポジウム開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 講演会

(1) 日時 平成18年10月24日(火) 9:30~17:00

(2) 会場 ウェルシティ宮崎(宮崎厚生年金会館)

〒880 0879 宮崎市宮崎駅東1丁目2番8号

☎0985 23 3311 FAX0985 23 5823

2. シンポジウム

(1) 日時 平成18年10月24日(火) 15:00~17:00

(2) 会場 ウェルシティ宮崎(宮崎厚生年金会館)

(3) 課題 未定

3. 現地見学会

(1) 日時 平成18年10月25日(水) 8:30~16:00

(2) コース

国営事業による木之川内ダム~綾町内(昼食)~経営体育
成基盤整備事業による飯田地区~宮崎県総合農業試験場等を
予定

4. 講演申込み

(1) 申込み方法 講演希望者は,演題・氏名・勤務先・所
属を明記のうえ,「6.事務局」までお
申込み下さい。

(2) 申込み締切り 平成18年8月31日(木)

(3) 投稿要領 図・表・写真等を含めて,1題につき2
ページまたは4ページとし,3ページや
5ページ以上の原稿,また投稿要領に
従っていない原稿は受け付けません。

(4) 講演時間 15分程度(質問・交代時間を含む)

(5) 投稿締め切り 平成18年9月8日(金)必着

(6) 投稿先 〒889 2192 宮崎市学園木花台西1 1
宮崎大学農学部 稲垣 仁根 宛
TEL&FAX 0985 58 7239

E mail: a03221u@cc.miyazaki-u.ac.jp

(7) 原稿の書き方 学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)
をご覧下さい。

5. 参加申し込み

農業土木学会誌 8月号に掲載予定

6. 事務局

宮崎県農政水産部農村計画課技術管理担当(農業土木学会九州支部講演会事務局)

住所: 〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号

担当: 図師, 徳丸

☎0985 26 7165 FAX 0985 26 7343

E mail: tokumaru-manabu@pref.miyazaki.lg.jp

第45回(平成18年度)畑地かんがい研究集会開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



このたび「水士に沿った畑作と畑地かんがい」をメインテーマとして、講演会並びに現地研修会を下記により開催することになりました。畑地の整備が緊急の課題となっている今日、畑地かんがいの意義と今後の方向について、自由な討論を通して確かめておくことは、非常に重要と思えます。

つきましては、各農政局、各都道府県、各市町村および各会社、団体におかれましては、この研究集会に、多数参加されますようご案内申しあげます。

共催:(社)農業土木学会畑地整備研究部会,(社)畑地農業振興会
後援:岩手県

1. 期日 平成18年9月7日(木)講演会

平成18年9月8日(金)現地研修会

2. 講演会

(1) 会場:いわて県民情報交流センター(愛称:アイーナ) 8F「会議室804」

〒020 0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通171 ☎019 606 1717

(2) 日時:9月7日(木) 9時30分~17時00分

(3) 課題:「水士に沿った畑作と畑地かんがい」

北岩手地域の持続的な畑作振興

東北農政局北上土地改良調査管理事務所

所長 高橋 修一

最近の畑地かんがい資機材 展示会社5~6社

大豆の有芯部分耕栽培技術(副題:安定多収につながる土壌水分制御)

(独)農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター東北水田輪作研究チーム主任研究員 天羽 弘一

畑地帯総合整備事業 舌崎地区について

岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室

農村計画課長 佐藤 雄功

岩手県における雑穀生産について

(株)プロ農夢花巻専務取締役 伊藤 正男

低温湧水を利用した地中冷却処理による施設野菜の高品質生産

(独)農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターやませ気象変動研究チーム 主任研究員 青木 和彦

総合討論

(講演の順序,講師は都合により変更することがありま

す。)

(4) 会費:9,000円/人

3. 現地研修会

(1) 会費:8,000円/人

9月8日(金)・集合時間:8時45分 出発:9時00分・

集合場所:マリオス前

マリオス前 盛岡手作り村 畑地帯総合整備事業(盛岡西部地区)

(9:00)(9:30~10:10) (10:40~11:10)

昼食 花巻市八重畑雑穀団地 花巻市宮野目野菜団地

(12:10~13:00)(13:10~13:40) (13:50~14:20)

花巻空港 JR盛岡駅(自由解散)

(14:30)(15:30)

4. 参加申し込み

(1) 講演会,現地研修会に参加希望の方は,下記様式により「FAX」または「郵便」で申込んで下さい。

なお,申込者(個人別)の所属先および農業土木技術者継続教育機構の会員の方は番号を備考欄に記入して下さい。

畑地かんがい研究集会参加申込書

(該当するところに印をつけて下さい)

所 属	TEL		FAX	
申込み代表者	(フリガナ) 住所		〒	
(フリガナ)氏名	講演会 出席 欠席	現地研修会 出席 欠席	振込み 予定月日	備 考
モリオカ盛岡 タロウ 太郎			8月10日	所属先 農地整備課 会員番号 NO.1123456
				所属先 会員番号

(2) 申込み先 (社)畑地農業振興会

〒105 0012 東京都港区芝大門1311 YSKビル6F

☎03 3438 2581 Fax 03 3438 2583

(3) 申込み期限:平成18年8月4日(金)

なお,会場の都合により定員になり次第締切りますので早めにお申込み下さい。

(4) 参加費用の払込み

上記「畑地かんがい研究集会参加申込書」により申込みと同時に,講演会費および現地研修会費を下記へお振込み下さ

い。参加費を予め振込めない場合は、振込み予定日を申込書（欄）に記入して下さい。

なお、当日会費を持参されますと、受付が混乱しますのでご遠慮願います。

講演会費および現地研修会費の振込みは、下記をお願いします。

A. 郵便振替の場合 00120 4 95103 (社)畑地農業振興会

B. 銀行振り込みの場合 みずほ銀行 浜松町支店

普通口座 1180627 (社)畑地農業振興会

(5) 申込みの取消し、または変更が生じた場合の取扱いについて

講演会費および現地研修会費の振込み後、取消しまたは変更される場合は 8 月 16 日までにご連絡頂いた場合に限り全額お返しいたします。

ただし、8 月 17 日以降は、半額申受けます。

平成 18 年度 資源循環研究部会研究発表会の開催

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



資源循環研究部会は、農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る技術の発展およびこれら技術に関心を有する者の学術交流に寄与することを目的として、パシフィコ横浜で研究発表会を開催することを企画しています。

資源循環研究部会員の皆様方から広く発表者を募りますので、積極的なご応募・ご参加をお待ちしています。

また、発表会の聴講申込につきましても同時に募集いたしません。

1. 開催日 平成 18 年 9 月 1 日 (金) 10:00~16:00

2. 会場 パシフィコ横浜 (みなとみらい 21)

3. 内容 人、家畜、農村をとりまく資源循環の構築を目指して (仮題)

4. プログラム (予定)

・ 9:00~ 受付

・ 10:00~11:00 基調講演 石川県立大学 高橋 強教授

・ 11:00~12:00 } 研究発表会

・ 13:00~16:00 }

5. 発表要領および申込み方法等

(1) 発表要領

ア 発表者の資格

農業土木学会資源循環研究部会会員とします。(申込みと併せての入会も可能です)

イ 発表の内容

農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る調査・研究の成果 (農業集落排水技術全般、バイオマス利活用、水資源再利用、汚泥再資源化技術等)

ウ 発表方法

個人発表とし、1 人 (共同研究の場合は口頭発表者) 1 課題とします。発表を補助する映像機器として、パソコン画像を投影できるプロジェクターを用意します。

エ 発表時間

20 分程度/人 (発表 17 分、質疑応答 3 分程度) の予定です。

オ その他

優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表

彰することを予定しております。

(2) 申込み方法

申込用紙と発表要旨の提出をもって申込みと見なします。

申込用紙は、地域資源循環技術センターホームページ <http://www.jarus.or.jp> よりダウンロードしてください。

申込みは、原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

締切りは平成 18 年 7 月 30 日 (月) 必着とします。

(3) 発表要旨の作成要領

発表要旨は、図・表・写真等を含め、1 課題につき A4 版 2 頁以上、8 頁程度までとします。

発表要旨の作成要領は、地域資源循環技術センターホームページに掲載しております。

(4) 発表者の決定

なるべく多くの方に発表を戴きたいと考えておりますが、応募総数または内容によって、発表をお断りする場合があります。応募者へは 8 月 17 日 (木) に通知をする予定です。

(5) 発表要旨集の作成

発表会当日は、発表要旨集を作成し、配布します。

(6) 論文集の作成

発表会終了後、発表された課題について論文を作成していただき、資源循環研究部会論文集としてとりまとめを行います。

論文は、査読委員会にて査読を行い、場合によっては加筆修正をお願いすることがございます。

論文作成要領、査読基準は、地域資源循環技術センターホームページに掲載しております。

論文集は、できあがり次第、発表者および参加者に配布します。

6. 聴講申込

(1) 対象者 農業土木学会会員、資源循環研究部会会員、学生、一般 (申込と併せての入会も可能です)

(2) 定員 170 名

(3) 聴講方法・料金

聴講をご希望の方は事前に申込をお願いいたします。

聴講料金は、以下のとおりです。

農業土木学会会員・資源循環研究部会員：5,000円/人
 学生：1,000円/人，一般：6,000円/人

当日における事務の煩雑化を避けるため、出来る限り銀行振込のご利用をお願いいたします。(振込先は申込用紙に記載)

(4) 申込み方法

聴講申込書を電子メールでお送り下さい。電子メールをお持ちでない方のみ FAX または郵送による申込みを受付けます。なお、資源循環研究部に入会希望の方は入会届も併せて提出願います。

聴講申込書、入会届は、地域資源循環技術センターホームページよりダウンロードしてください。(http://www.

jarus.or.jp)

申込期限：平成 18 年 8 月 25 日(金)

(銀行振込の期限は 8 月 28 日(月)までとします。)

7. 申込みおよび問合わせ先

資源循環研究部会

事務局：社団法人地域資源循環技術センター

(旧：日本農業集落排水協会)

企画情報班 関島・岡部あて

〒105 0012 東京都港区芝大門一丁目 1 番 3 号

日本赤十字社ビル

☎03 3432 6282 FAX 03 3432 0743

E mail:sigen@jarus.or.jp

平成 18 年度農村計画研修会(第 28 回現地研修集会)について(再)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主 催：農業土木学会農村計画研究部会

後援：熊本県，水土里ネット熊本(熊本県土地改良事業団体連合会)

協賛：農村計画学会

2. テーマ：土で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ

3. 日 程：平成 18 年 9 月 7 日(木)8 日(金)

4. 会 場：熊本テルサ テルサホール

5. プログラム

(1) 研修集会 平成 18 年 9 月 7 日(木) 9:30~16:45

8:45~9:30 受付

9:30~9:45 開会挨拶

9:45~11:15 基調講演「農政の改革と地域資源保全
 ふるさと資源の再発見」

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺眞一

11:15~12:00 講演「農村資源とツーリズムについて」

(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長 坂元英俊

12:00~13:00 休憩

13:00~13:40 事例報告「水循環型営農運動について」

水土里ネット大菊事務局長 紫藤和幸

13:40~14:20 事例報告「ボランティアで取り組む阿蘇

の草原保全活動」

(財)阿蘇グリーンストック専務理事 山内康二

14:20~14:50 情勢報告「熊本県の農業農村整備と資源

保全施策」

熊本県農村整備課農村環境室長 榎 純一

14:50~15:00 休憩

15:00~15:40 情勢報告「資源保全施策と今後の農業農

村整備の展開方向」

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 仲家修一

15:40~16:40 パネルディスカッション

「豊かな環境の継承に向けた阿蘇の資源保全の取り組み」
 コーディネーター

農村工学研究所都市農村交流研究チーム長 石田憲治

パネリスト

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺眞一

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 仲家修一

阿蘇地域デザインセンター事務局長 坂元英俊

水土里ネット大菊事務局長 紫藤和幸

(財)阿蘇グリーンストック専務理事 山内康二

アナウンサー(フリー) 風戸直子

16:40~16:45 閉会挨拶

(2) 現地検討会 平成 18 年 9 月 8 日(金) 8:30~15:00

8:30 熊本テルサ 集合

8:40 熊本テルサ 出発

研修の場所：鼻ぐり井手，ASO 田園空間博物館など

15:00 熊本空港 解散

15:50 JR 熊本駅 解散

6. 参加費用

研修集会参加費 6,000円

現地検討会 4,000円(昼食代1,000円含む)

7. 参加申込

参加をご希望の方は参加申込書(部会ホームページからダウンロードして下さい)に所要事項を漏れなく記入の上，FAX または郵送にてお申し込み下さい。なお，原則として団体ごとにとまとめてお願いいたします。申し込み多数の場合は，定員 400 名に達し次第締め切らせていただきますので，あらかじめご了承下さい。

なお，台風等の自然災害で現地研修会が開催できない場合でも参加費の一部(3,000円)は申し受けますので，予めご了承下さい。

- (1) 申込期限 平成 18 年 7 月 21 日 (金)
- (2) 申込先 農村計画研修会現地運営事務局
〒862 8570 熊本県熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号
熊本県農林水産部農村計画・技術管理課
担当: 田上哲哉 宮部志郎
☎096 333 2406 FAX 096 383 6581
- (3) 参加費の納入
申し込みをいただきますと 8 月上旬に請求書をお送りしますので、請求書の指定口座に振り込んで下さい。なお振り込み手数料は参加者負担をお願いします。
- (4) 申込の変更・取消
8 月 15 日 (火) までに現地運営事務局まで FAX にてお申

し出下さい。それ以降の取り消しについては、参加費の返還ができませんので、あらかじめご了承ください。

8. 宿泊施設 参加者各自でお申し込み下さい。
9. その他

詳細は、部会のホームページ(http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/2006_kumamoto.htm) をご覧下さい。

【現地研修集会に対する問合わせ先】

農村計画研修会現地運営事務局
〒862 8570 熊本県熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号
熊本県農林水産部農村計画・技術管理課
担当: 田上哲哉 宮部志郎
☎096 333 2406, FAX 096 383 6581

第 50 回粘土科学討論会

主催: 日本粘土学会
共催: 農業土木学会, 他 17 学協会
会期: 2006 年 9 月 7 日 (木) ~ 9 日 (土)
会場: 千葉科学大学 マリーナキャンパス 講義棟
(〒288 0025 千葉県銚子市潮見町 3 番地)

日程:

9 月 7 日 (木)	13:00 ~ 16:00	口頭発表
	16:00 ~ 18:00	ポスター
9 月 8 日 (金)	9:00 ~ 11:00	口頭発表
	11:00 ~ 12:00	日本粘土学会総会
	13:00 ~ 14:00	会長講演
	14:00 ~ 18:00	シンポジウム
	18:00 ~	懇親会
9 月 9 日 (土)	9:00 ~ 12:00	口頭発表
	13:00 ~ 15:00	公開市民講座

講演:

- A. 一般講演 (口頭発表, ポスター発表)
B. 会長講演
C. シンポジウム

一般講演の申込方法:

日本粘土学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/cssj2/index.html>) からお申込みください。講演ごとに 1 通の参加申込みフォームをお送りください。講演概要はプログラム編成に使用いたしま

すが、合わせて日本粘土学会ホームページに討論会プログラムとともに公表しますこと、ご了承ください。なお、発表者の内 1 名は本学会会員であることが必要です。Web ページが使えない場合は、下記あてでお問合わせ下さい。

申込開始: 2006 年 5 月 23 日 (火) 12:00 ~

申込締切: 2006 年 6 月 20 日 (火) 必着です。Web ページからの申込の場合は確認のための返信をいたしますので、返信がない場合は再度ご連絡をお願いいたします。

参加登録料: 会員 (共催学会員を含む) 3,000 円, 学生会員 1,000 円, 非会員 5,000 円

講演要旨集代: 3,000 円

講演要旨締切: 7 月 21 日 (金) 必着

懇親会: 9 月 8 日 (金) 18:30 ~ 銚子プラザホテル (JR 銚子駅前) 会費: 一般 6,000 円, 学生 3,000 円

「粘土科学 第 45 巻第 3 号」に添付する参加申込みフォーム, または官製はがきに参加者氏名・所属を記入して, 下記申込先にお送り下さい。

問合わせ, 講演・懇親会申込先, 講演要旨送付先:

〒288 0025 銚子市潮見町 3 番地

千葉科学大学危機管理学部環境安全システム学科内

第 50 回粘土科学討論会実行委員会安藤 生大 (アンドウ タカオ)

Tel. & Fax .0479 30 4642 E mail: tando@cis.ac.jp